

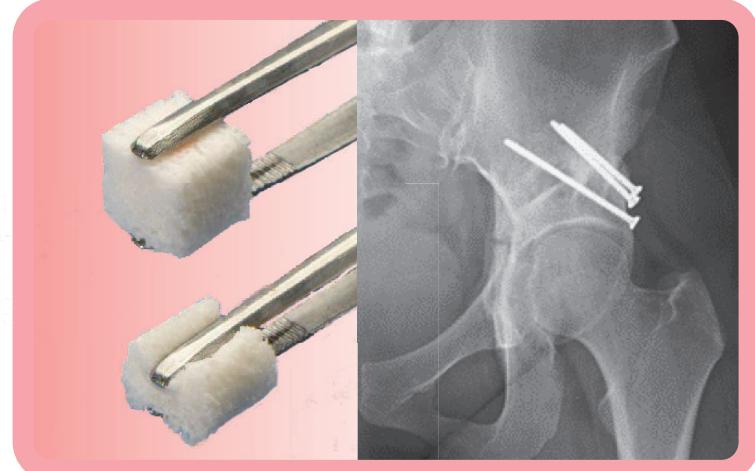
医療用品 4. 整形用品 高度管理医療機器 コラーゲン使用人工骨

Collagen Hybrid  
ReFit リフィット®

寛骨臼移動術における  
リフィットの臨床成績と有用性について  
— 使用時のポイントと併せて —

資料提供

国家公務員共済組合連合会浜の町病院 整形外科  
部長 馬渡太郎 先生



## はじめに

寛骨臼形成不全に伴う亜脱臼性股関節症に対して、骨盤骨切りを行い、大腿骨頭の被覆を正常な状態に改善させる関節温存手術である。原法は1969年に九州大学第4代教授に就任された西尾篤人先生が1956年に世界で初めて報告された。青・壮年期の前股関節症・初期変形性股関節症の症状緩和および病気進行の予防に効果があり、まず考慮すべき手術療法である。軟骨変性が進行するより前にタイミングを逃さず行う事が重要である（文献1-4）。

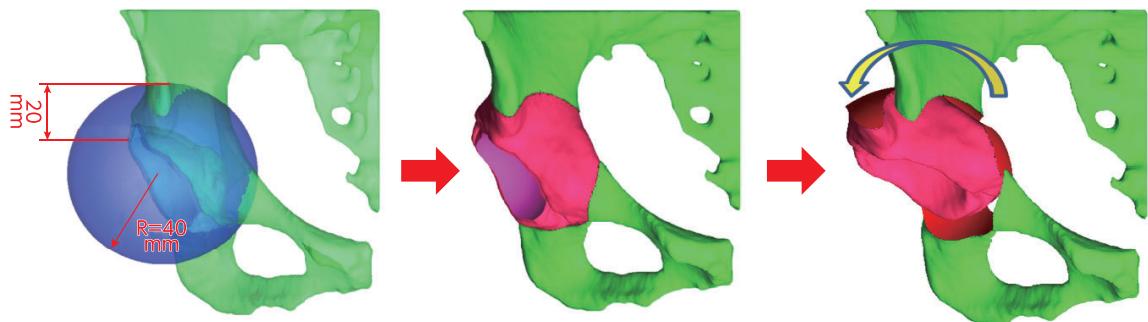


図1：寛骨臼移動術

曲率半径40mmの弯曲ノミを用いて球状に寛骨臼を骨切りし、移動骨片(赤色)を3次元的に最適な位置で固定する

移動骨片の固定がうまくいけば、術後2週から部分荷重歩行訓練を行っているが、できるだけ早期に骨癒合を獲得することが望ましい。

我々は、移動骨片を固定後、母床の間に生じた間隙にリフィットを補填しており、良好な手術成績を得ているので供覧する。

## ポイント

- 1) 骨切り術において、移動骨片と母床の間隙は複雑な形状であり、狭い開口部の奥に空間が存在することも多く、柔らかいリフィットは有用である。
- 2) リフィットは周囲の血液に浸した状態で挿入する。
- 3) リフィットは比較的距離の離れた骨と骨の間における scaffold (足場) として、早期骨癒合獲得に有用と考えられる。

# 症例1

## 左亜脱臼性股関節症 (20歳代／男性)

20歳代男性、左亜脱臼性股関節症に対し、側臥位で寛骨臼移動術を行った。大転子は切離せず、中殿筋の前後方から骨盤骨切りを施行、単鈍鉤2本を用いて骨片を至適位置に移動させ、スクリュー3本で固定した。移動骨片後方に間隙を認め、リフィット (6mL) を補填した。術後2週から部分荷重開始し、術後5週で全荷重、T-cane歩行で退院した。術前の股関節痛は消失し、術後3ヶ月から杖無し歩行となり、経過良好である。

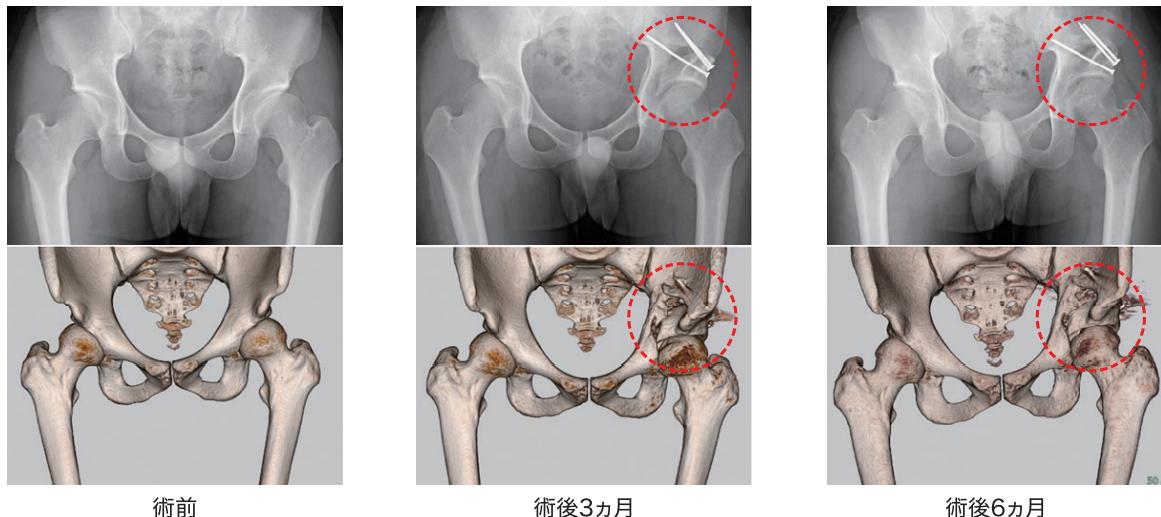


図2: 3D-CT画像  
移動骨片の骨癒合が進行している

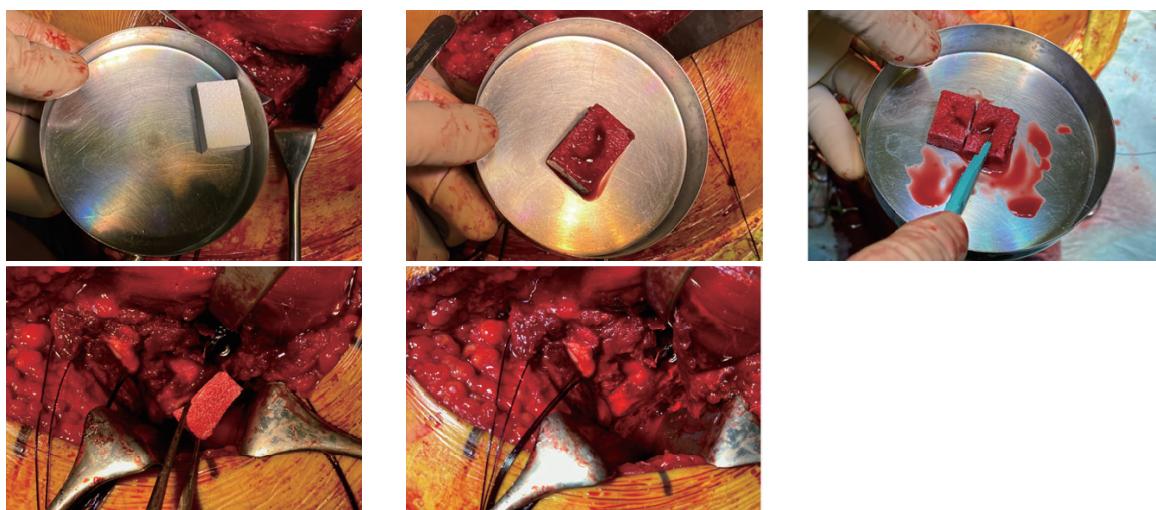


図3: 術中写真  
リフィットは術野で血液を含浸させ、メスにて使いやすいサイズにカットし、移動骨片後方の間隙に充填した。  
間隙の開口部は狭いが、奥には比較的大きな空間を認めた。

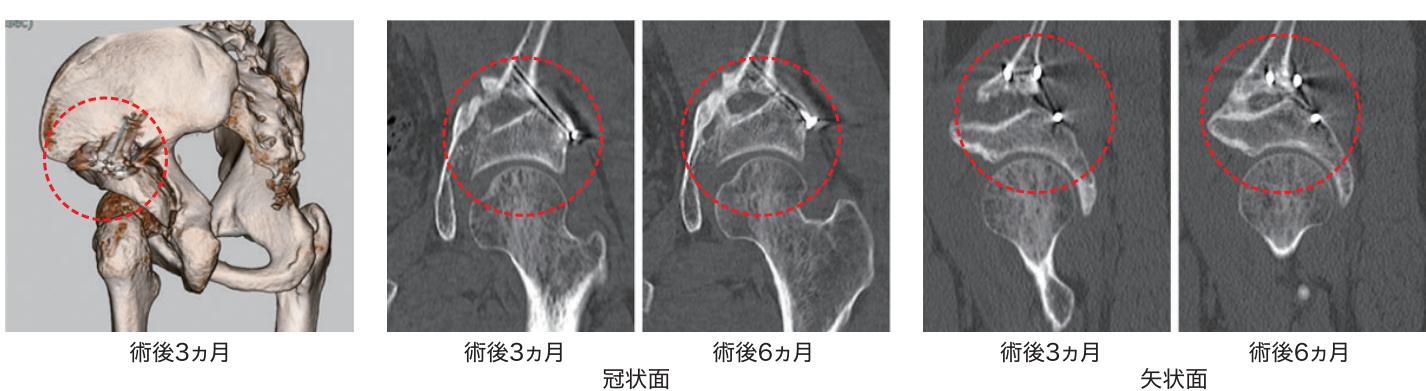


図4: CT画像での骨癒合状態  
移動骨片の後方に生じた母床との間隙にリフィットを充填しているが、冠状画像、矢状画像ともに、順調に骨癒合が進行していることがわかる。

# 症例2

## 左亜脱臼性股関節症 (20歳代／女性)

20歳代女性、左亜脱臼性股関節症に対し、側臥位で寛骨臼移動術を行った。大転子は切離せず、中殿筋の前後方から骨盤骨切りを施行、単鈍鉤2本を用いて骨片を至適位置に移動させ、スクリュー3本で固定した。移動骨片後方に間隙を認め、リフィット(6mL)を補填した。術後2週から部分荷重開始し、術後5週で全荷重、T-cane歩行で退院した。術前の股関節痛は消失し、術後3ヶ月から杖無し歩行となり、経過良好である。

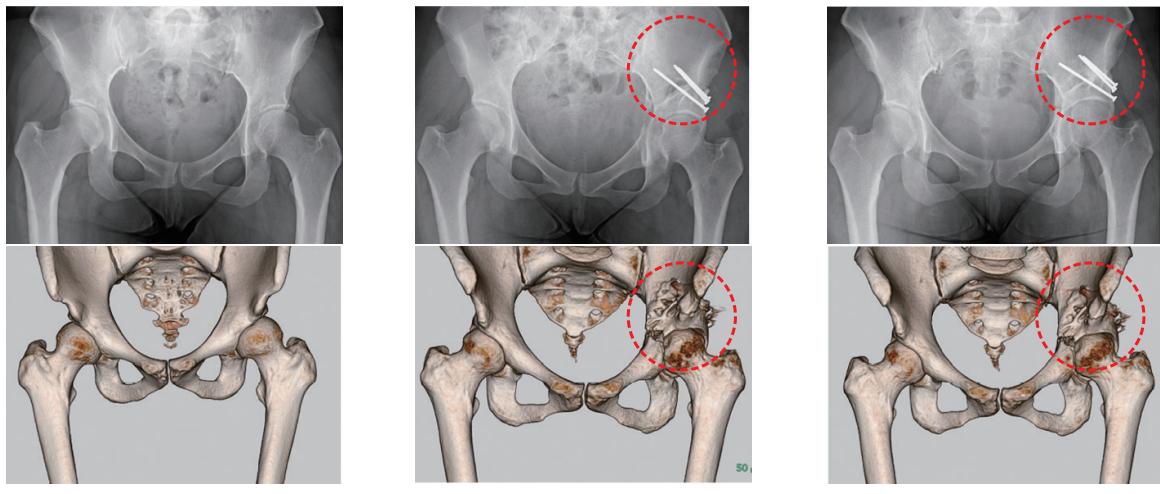


図5:3D-CT画像  
移動骨片の骨癒合が進行している

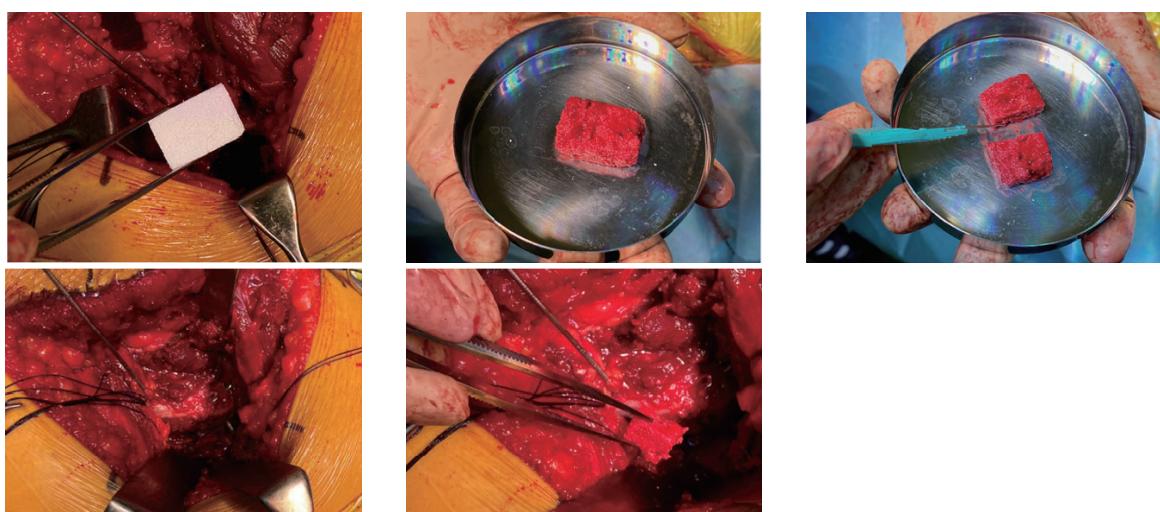


図6:術中写真  
リフィットは術野で血液を含浸させ、メスにて使いやすいサイズにカットし、移動骨片後方の間隙に充填した。  
間隙の開口部は狭いが、奥には比較的大きな空間を認めた。

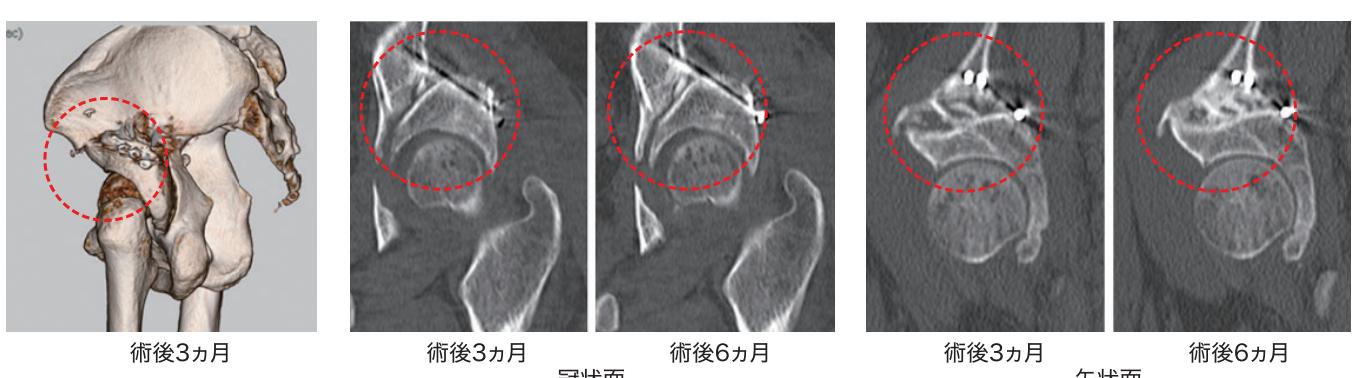
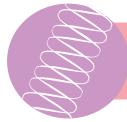
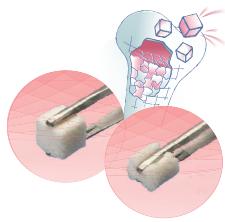
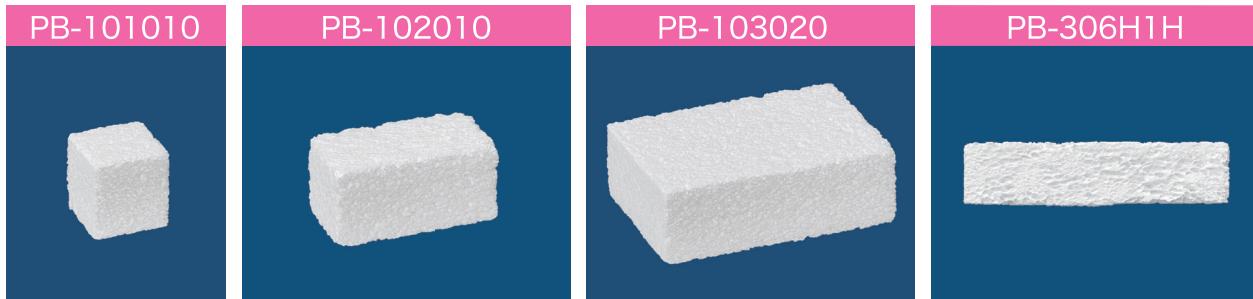


図7:CT画像での骨癒合状態  
移動骨片の後方に生じた母床との間隙にリフィットを充填しているが、冠状画像、矢状画像とともに、順調に骨癒合が進行していることがわかる。



## 製品一覧

償還分類 ; 078 人工骨 (1) 汎用型 (2) 吸收型 イ多孔体 ii 蛋白質配合型



区分名略称 人工骨:AB-06-2

品番	PB-101010	PB-102010	PB-103020	PB-306H1H
寸法	10×10×10mm	10×20×10mm	10×30×20mm	30×6.5×1.5mm
包装単位/箱	1個(1.0mL)	1個(2.0mL)	1個(6.0mL)	7枚入り(2.0mL)

### 参考文献

1. 变形性股関節症診療ガイドライン 2016 改訂第2版, 編集 日本整形外科学会診療ガイドライン委員会 / 变形性股関節症ガイドライン策定委員会 (委員長 九州大学整形外科教授中島康晴先生), 南江堂, 2016
2. Matsuo A et al. : Transposition osteotomy of the acetabulum for advanced-stage osteoarthritis of the hips. J Orthop Sci 14(3): 266-273, 2009
3. Fujii M et al. : Effect of intra-articular lesions on the outcome of periacetabular osteotomy in patients with symptomatic hip dysplasia. J Bone Joint Surg Br 93(11): 1449-1456, 2011
4. Hamai S et al. : Minimum 10-year clinical outcomes after periacetabular osteotomy for advanced osteoarthritis due to hip dysplasia. Orthopedics 41(5): 300-305, 2018

# PENTAX

製造販売業者

**HOYA Technosurgical 株式会社** [www.hoyatechnosurgical.co.jp](http://www.hoyatechnosurgical.co.jp)

■本 社 〒160-0004 東京都新宿区四谷4-28-4 TEL:03-5369-1710 FAX:03-5369-1711  
■札幌営業所 〒060-0007 札幌市中央区北七条西13-9-1 TEL:011-241-3473 FAX:011-241-3472  
■仙台営業所 〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-7-1 TEL:022-371-6944 FAX:022-371-8924  
■名古屋営業所 〒461-0001 名古屋市東区泉1-21-27 TEL:052-955-8572 FAX:052-955-8573  
■大阪営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場1-17-9 TEL:06-6263-1679 FAX:06-6263-1686  
■福岡営業所 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3-8 TEL:092-281-6860 FAX:092-281-6869

ご注文先



益子工場

〒321-4292 栃木県芳賀郡益子町大字塙858  
TEL:0285-72-6253 FAX:0285-72-6259

※仕様、形状は一部変更することもあります。

※掲載の写真・形状図は実物大ではありません。

※掲載している実験数値等は参考値です。

※添付文書をよく読んでから使用してください。

RF105102